

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第35号

発行年月 2018年2月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 ☎700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
<http://okayama.houmonkango.net/>
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 江田 純子

会員の皆様には、お健やかに平成三〇年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当協議会の事業に対しまして温かいご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、皆様には、ご利用者様やご家族様に在宅で安心して快適に過ごしていただけるよう、毎日訪問看護にご尽力されていることと存じます。本年は診療報酬・介護報酬・障がい者福祉の三つが改訂されます。訪問看護では、中重度者への対応、介護予防訪問看護、理学療法士等によるリハビリテーション等に関する見直しを検討されています。また、一人



一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 江田 純子

新年のごあいさつ

生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」等の内容に沿った取り組みについても検討されているところです。その基盤にありますのは、人材確保・定着により訪問看護ステーションの大型化を図るとともに、ご利用者様とご家族様が満足できる在宅療養支援のために看護実践の質向上をめざしていくことと考えております。

当協議会といたしましては、本年度から実施しております訪問看護ラダー別教育プログラムに則した研修を次年度も継続してまいりますので、多くの方にご参加をお願い申し上げます。

賛助会員 からの メッセージ

医師がステーションに 期待すること

岡山県医師会

会長 石川 紘

「広報だより」の原稿提出期限を過ぎた1月13日に平成29年度岡山県都市等地域地域包括ケア推進協議会が開催されました。今回は3回目です。医師会、県保健福祉部、保健所、地域包括支援センター等大きく分けて7団体が、基調講演の後、県内13地区が与えられた課題に対して「グループワーク」を行い、その内容を発表し合い講評を受ける内容で、在宅医療、介護、看取りの実践にとつて、実に意義深い協議会です。

今回、このメンバーに新たに各地区15の訪問看護ステーションが加わりました。

この参加は医師側からの強い要請があったからと聞きます。医師と訪問看護ステーションとの互いの顔が見える関係が求められたのです。医師の行為分域にステーション看護師さんへの協働を頂きたい。利用者の思いの把握に長けた看護師さんのアドバイスが欲しい・・・等です。何かに付けて、これからの協働を切にお願い致します。

ステーションからの

リレーだより

阿新虹の訪問看護ステーション

管理者 須藤美帆

私たちの「阿新虹の訪問看護ステーション」は、新見市にあり、平成27年までは、内科診療所併設のステーションとして活動していました。しかし、内科診療所の医師が病に倒れ閉鎖となってからは、訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所だけが残り、昔の公団住宅を改築した4階建ての大きな古い建物の中に、その2事業所が肩を寄せ合って頑張っています。

ガラんとした空間で遅くまで仕事をしていると、何かこの世のものではないような物の気配を感じることもあります。それでも、私たち4人のスタッフは明るく陽気に、たまには夫の愚痴や嫁姑の問題も語り合いながら、毎日を過ごしています。

「ボロいながらも楽しい職場」と思えるような、そんな事業所でありたいと思っています。



訪問看護ステーションゆうあい

管理者 柴田栄子

「今日も安全運転で」

訪問看護ステーションゆうあいは、県北の真庭市にあります。

これからの季節は道路の凍結や積雪で訪問先への移動にとても気を遣います。

昨シーズンはよく雪が降ったので車の雪かきから一日のスタートです。

利用者さんの家族から「ここらあたりは〇〇cm降るとるから気をつけて来てえなあ」と電話が入ります。気合いを入れていつもより早めの出発です。

移動中の看護師の事故は打撲や骨折などの重大なものもあり、今年度は死亡事故もあったようです。

訪問先への移動に限らず、出勤や退勤時等も事故を起こさないように巻き込まれないように安全運転を心がけましょう。

今日も一日無事故で帰ってくるスタッフに「お疲れ様、ありがとう」

新設のステーション紹介

訪問看護ステーションこやま(倉敷・総社)

管理者 小山貴大

初めまして、訪問看護ステーションこやまです。

当ステーションは平成29年9月に看護師3名で総社市に開設しました。

以前は老健に勤めていましたが、その時に自宅で医療的ケアができないことや環境が整っていないことで帰たくても帰れないご利用様をたくさん見てきました。そのようなご利用様が住み慣れた地域で在宅生活を維持できるように24時間体制で支えていきたいと考えています。

また、ご利用様やご家族様の気持ちに寄り添い、頼っていただけるようなステーションを目指していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

訪問看護リハビリステーション そら(岡山C)

管理者 桑田祐里

平成29年11月に、岡山市北区下中野に、「訪問看護リハビリステーション そら」を開設いたしました。

「そら」では、“安心の在宅看護”を理念とし、一人一人に合わせた看護とリハビリテーションを行います。

利用者様が、住み慣れた環境で豊かな生活が実現できるよう生活様式に合わせ、安全で適切なサービスの提案と提供ができるよう支援いたします。

この度1月から自立支援医療として、精神医療・育成医療・更生医療の指定も受けました。24時間対応や、幅広く介護保険・医療保険他自費のサービスでも対応しています。

柔軟に利用者様の要望に合わせ対応してまいりますので宜しくお願い致します。



中四国ブロック会に参加して

ゆめの里訪問看護ステーション 管理者 森重良子

平成29年10月21日 訪問看護ステーション連絡協議会中四国ブロック大会の香川県大会に行ってきました。午後からの研修で、久しぶりに瀬戸大橋を渡り香川県看護協会の研修センターへ向かいました。まずはランチョンセミナーで美味しいお弁当いただきながら富山大学附属病院の四日順子先生に「漢方医学の考え方を看護に活かす」をテーマで自然治癒能力高めて病変に対処する漢方薬と、五感をフルに動員して回復過程を助ける看護との関係を詳しく説明して頂きました。2題目は訪問看護事業協会の上野桂子先生による事業所自己評価ガイドラインの活用についての講義でした。管理者は何をすべきか、理念・目標を明確にしガイドラインを活用・評価し、自訪問看護ステーションの課題を発見改善していくことにより、質の高い訪問看護が提供でき組織のビジョンを持つことが出来る事で事業運営・人材育成・まちづくりなどの事業所体制を整備できるとのお話でした。最後に「人材確保と人材育成」～2025年に向けての訪問看護のあり方～についてのグループワークでした。各県の代表として皆さん活発な意見交換ができたと思います。24時間対応でも職員体制を2交代で活動されているステーションもあると聞き驚きました。交流会前の中野うどん学校でのマイうどん作り体験は童心に帰り、一緒に参加した玉谷さんと楽しい一時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

多職種との地域連携の取り組みについて

岡山B地区

岡山B地区理事 谷口勝江

B地区は、中区、東区合わせて16か所のステーションがあり、地域に根差した活動を行っています。この地域は、駅や繁華街、商店街といった存在は無いものの、山や川の自然豊かな環境に囲まれ、大変住みやすいところです。それゆえ人口密度は高く、時代とともに高齢化も進み、医療、看護を必要とした人たちも多く在住しています。私たち在宅医療を担う事業所は、それぞれの役割を確認、情報共有をしていく事で、その方々の健康な生活を支えて行こうと努力しています。

写真は関係事業所が集まった、リハビリ会議の場面です。ご本人、ご家族を交えた会議を持つことで、よりご希望に沿った、在宅環境が整い、関わる事業者どうしが連携を深めることで、その人なりの人生を支えるお手伝いが出来ていると思います。

また、B地区では、今までにない試みで、今年10月にグローバルな時代の先取りとした、医療、看護に使える英会話の勉強会を開催いたしました。『久しぶりに英語に触れた、時代の変化についていきたい、これからは、こんな事も必要になる』等の感想が多く、有意義な勉強会となりました。私たちは、常に前をみすえて、新しい時代に立ち向かっていけるそんな訪問看護を目指していきたいと思っています。



倉敷総社地区

倉敷総社地区理事 濱田 ゆりか



倉敷、総社支部では「多職種連携と協働を考える」ことを目的に病院・地域包括・居宅へ呼びかけ児島・倉敷・総社と地区別の交流会を開催しています。グループワークでは、各々の立場から様々な意見、提案が繰り出され大盛況です。倉敷連合医師会では在宅医療をすすめる会が発足し「医師と訪問看護師連携をすすめる」というテーマに参画しています。訪問看護のPRとして倉敷商工会議所会報への掲載、倉敷三斎市への出店を行いました。医療と介護の連携が一番ゆっくりですが、顔の見える関係ができ、交流の場をもつことで思いが伝わり、確実に連携の輪が広がってきています。「見える化」から「観える化」を目指し活動を続けていきたいと考えています。

勝英津山地区

勝英津山地区理事 井上千治

勝英津山地区は現在12か所のステーションがあります。

各地区で多職種での研修は行われています。津山地区で開催されている他職種連携研修は津山市在宅医療、介護連携推進事業として毎年3回開催されます。今年度第1回は12月3日地域の支援者として重要な役割を果たしている「民生委員さんとの連携」をテーマに研修が開催されました。

民生委員さんの役割や活動などを聞き、お互いの役割や活動を知り今後の支援に向けてグループで意見交換を行いました。医療、介護関係者と民生委員さんと顔の見える関係づくりを進め今後医療と介護を必要とする高齢者を地域で支える為にできる事を一緒に考えました。他職種の役割を理解し、より一層訪問看護の充実と向上に努めて行きたいと思っています。



精神科訪問看護研修会に参加して

こうなん訪問看護ステーション 頼 則 美 紀

精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修会に参加させて頂きました。この4日間の研修会では、実際に病院や在宅で働かれている医師・看護師・保健師・精神保健福祉士・介護支援専門員の方々にご講義を頂き、精神疾患や薬物療法の基礎知識・社会資源の活用・家族支援等精神科訪問看護に必要な知識・技術を学ぶ事ができました。4日目の研修では学んだ事を活かして、グループワークやロールプレイを通して事例検討を行い、実践に繋がる学びとなりました。この研修会に参加する事で、精神科訪問看護も地域包括ケアが重要である事、疾患ばかりに目を向けるのではなく、強みに焦点を当てて人を支援する事がポイントである事を学び、抱いていた不安な思いが和らぎました。今回の学びをステーションで共有し、日々の訪問で活かしていきたいと思っています。



岡山県補助事業として「看護学生の訪問看護ステーション体験事業」を行っています。今年、第Ⅰ期(夏休み期間中)に27名の看護学生が職場体験を行いました。(第Ⅱ期は実施中) 職場体験を通し、訪問看護のやりがいを感じ、将来的に訪問看護をしたいという学生が77.7%でした。以下、体験を行った学生の感想を一部紹介します。

- 訪問看護の仕事の流れや、どのような方が利用されているのか、病院では知ることができない背景を学ぶことができた。とても丁寧なケアをしていて、知識や技術、的確な判断力を求められる仕事だと思った。臨床で基礎の土台を身に付け、自信をつけ、患者さんや家族介護者の配慮ができる訪問看護師になりたいと思った。
- 短時間でたくさんの看護・訪問看護に対する気づき、意識の変化など、自分なりに学べたことが嬉しい。最終的に訪問看護師になりたいという思いも以前より強くなった。
- 病院にいる看護師とは違う新たな一面を知ることができとてもよかった。環境も病院とは全く違い、その人らしさがとても大切に、看護師はそういった事を常に考えて看護を提供するという一面。そして家へ上がらせていただいているといった 病院では感じることでできない気持ちを持って、人と接している訪問看護師の方をみると、とてもかっこいいと思ったし、私も将来訪問看護をやりたいという気持ちがこの1日でとても強くなった。
- 訪問看護に憧れがあったため看護師という職に就きたいと思った。実際見てとても大変だけど、やりがいがあると思った。

LINE@

はじめました

連絡事項や、お知らせ等、
発信していきます。



- ホームページの更新情報
- 研修会情報
- 開催情報・申し込み状況・再募集・締切・駐車場について等々



双方向での連絡も可能ですので、ぜひ、お友だち追加してください。
こんな情報も是非!というものがございましたら、「トーク」からでもお気軽にご連絡ください♪

LINE アプリを起動して、[その他] タブの [友だち追加] から上の QR コードを読み取ってください。

(担当 事務局 亀川)

編集後記

寒暖の差が大きい今年は、利用者様の健康管理にとっても気を使いながら訪問されていることと思います。平成 30 年度は、診療・介護報酬、障がい福祉の3つの改正があり、訪問看護に期待されるところが大きいと思います。在宅療養支援のさらなる強化のため、訪問看護師としての力を発揮していきましょう。

広報委員一同